

記者発表資料

平成28年2月19日
矢作川流域圏懇談会事務局
国土交通省豊橋河川事務所

流域は一つ、山・川・海、調和のとれた 矢作川流域圏の発展を目指し、様々な活動を展開

～矢作川流域圏懇談会 第5回全体会議を開催します～

1. 概要

矢作川流域圏懇談会は6年目を迎え、山・川・海の参加者（矢作川流域圏懇談会パンフレット参照）が主体となり課題解決に向けた活動を展開しています。

山部会では、矢作川の山の課題を「人と地域の問題」と「森の問題」の2点に絞り、4つのテーマ（・山村再生担い手づくり事例集・山村ミートイキング・森づくりガイドライン・木づかいガイドライン）について検討、実行を行っています。

川部会では、「生き物の棲みやすい川づくり（上下流問題）」と「地先の課題」を課題とし、本川モデル、支川（家下川）モデル、地先モデルを選定し検討、実行を行っています。

海部会では、「ごみ・流木の問題」「豊かな海の生物調査」「海と人の絆再生」「干潟・ヨシ原再生」の課題について、検討、実行を行っています。

今回の全体会議では、各部会の平成25～27年度のとりくみの総括と今後の方針の決定を行います。

2. 日時：平成28年2月22日（月）14時00分～16時00分
開場は、13時30分から

3. 場所：豊田商工会議所 2階 多目的ホール
住所：愛知県豊田市小坂本町1-25
電話：(0565)32-4567 [代表]
駐車場は3時間までは、無料ですが、以降は個人負担となります。
公共交通機関をご利用ください。

4. 添付資料
・矢作川流域圏懇談会パンフレット
・山部会、川部会、海部会の活動進捗報告
・アクセスマップ
・傍聴申込用紙

5. 事前申込み
傍聴には事前の申込みが必要です。傍聴申込用紙に氏名、住所、所属等、連絡先を記入し、事務局へ送信してください。
事務局 FAX：(0532) 48-8100
E-mail：uno-t85aa@mlit.go.jp

6. 配布先
豊田市政記者クラブ、豊田市政記者東クラブ
岡崎市政記者会、岡崎新聞記者会
恵那記者会、岐阜県政記者クラブ、飯田市記者クラブ

7. 問い合わせ先
事務局：国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森正昭
電話：(0532)48-8107 FAX：(0532)48-8100

流域は一つ・運命共同体「矢作川流域圏懇談会」に参加しませんか!

市民会議(個人・市民団体・NPO法人・企業)のメンバー募集中

矢作川流域圏懇談会規約(抜粋)

※詳細は下記ホームページをご覧ください。

第1条 (名称)

本会は、「矢作川流域圏懇談会」(以下、「流域圏懇談会」という。)と称する。

第2条 (目的)

流域圏懇談会は、矢作川流域圏に關係する各組織のネットワーク化を図るとともに、流域圏住民と関係者が交流を深め、流域圏一体化の取り組み、ならびに矢作川に係る河川整備について、情報共有・意見交換を行うことを目的とする。なお、流域圏懇談会の構成員は、調和のとれた矢作川流域圏の実現に向け、お互い協力・連携するものとする。

第3条 (活動内容)

流域圏懇談会は、次に掲げる活動を行う。ただし、法律で認められた権利の阻害等に直接結びつくと考えられる内容については、取り扱わないものとする。

1) 流域圏一体化の取り組み

- (1) 課題についての情報共有を図る。
- (2) 流域圏懇談会で取り扱う課題を整理する。
- (3) 課題に対して、協働・連携した取り組みを意見交換する。

2) 矢作川に係る河川整備について

- (1) 河川整備の進捗状況について、情報共有を図る。
- (2) 河川整備の進め方等について、意見交換を行う。

▼ 切り取ってハガキに貼って送っていただいても良いです ▼

矢作川流域圏懇談会事務局
国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所 調査課 行
所在地 〒441-8149 豊橋市中野町字平西1-6
TEL)0532-48-8107 [FAX]0532-48-8100 [mail]toyohashi@cbr.mlit.go.jp

「矢作川流域圏懇談会」応募用紙

1. 団体・法人名 ※1	2. 所在地 ※1
--------------	-----------

※1 この欄は、個人で応募の場合は記入不要です。

3. 氏名(代表者名) ※2 (氏名(ふりがな))	4. 性別 男・女	5. 年齢 歳	6. 電話番号・FAX TEL: FAX:
------------------------------	--------------	------------	-----------------------------

7. 〒 住所	8. Eメールアドレス ※アドレスをお持ちの方
---------	-------------------------

※2 団体、法人、企業の場合は代表者名及び役職を記入ください。

9. 応募の動機 ※3

10. 矢作川流域圏に対する思いと課題 ※3

11. 地域での活動歴がある場合はその内容 ※3

※3 この欄に書ききれない場合は別紙でも結構です。(横書きをお願いします。)

参加のルール

1. 参加者全員が平等な立場にあることを自覚し、参加者の意見は所属団体の公的見解とせず自由な議論をします。
2. 議論はフェアプレイの精神で行い、特定の個人や団体を誹謗中傷するような発言は行いません。
3. お互いの意見をよく聞き、尊重し合いながら意見交換します。
4. お互いに協力し、矢作川の問題解決の推進に努めます。

※4 流域圏懇談会の参加にあたって必要となる交通費等、一切の経費は応募された方々の自己負担とさせていただきます。

※5 ご応募の際にご送付いただいた応募用紙に記入の個人情報は、本募集の目的以外には使用いたしません。

応募資格

- ① 矢作川流域圏における様々な諸課題に対して活動を行っている、又は活動を予定している個人・市民団体・NPO法人・企業等で、矢作川流域圏懇談会の趣旨に賛同し、積極的かつ継続的に取り組む意思があること。
- ② 個人の場合は、上記に加えて、矢作川流域圏に在住又は勤務し、かつ、満18歳以上である方。

応募方法

住所、氏名(団体・法人名)、年齢、連絡先、応募の動機を応募用紙に記入し、郵送、ファックス又は電子メールでご応募ください。

なお、応募用紙は、国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所ホームページ、あるいは左側の応募用紙をご利用ください。

ホームページアドレス

<http://www.cbr.mlit.go.jp/toyohashi/yahagigawa-unity/kondan/index>

応募先

矢作川流域圏懇談会事務局

国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所 調査課

- ・所在地 〒441-8149 豊橋市中野町字平西1-6
- ・TEL 0532-48-8107
- ・FAX 0532-48-8100
- ・E-mail toyohashi@cbr.mlit.go.jp

応募期間

継続して募集しています。

流域は一つ、運命共同体。調和の取れた流域圏を

課題解決に向け、あなたの参加を待っています。



ダム貯水池の流木処理



手入れされていない森林



繁茂した河道内の樹木



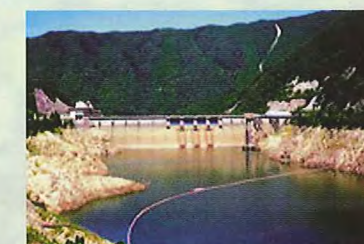
東海(恵南)豪雨時の状況 豊田市内



不法投棄された自動車



干潟、ヨシ原の減少した河口域



渇水のため水位が下がった矢作ダム (平成8年9月:貯水率17%)



矢作川流域圏における諸課題



外来種(カワヒバリガイ)



外来種(オオカナダモ)繁茂状況 豊田大橋付近

矢作川流域圏懇談会資料は、国土交通省豊橋河川事務所、矢作ダム管理所で閲覧できます。また、上記組織のホームページにも掲載されています。応募用紙の様式もダウンロードできます。

「矢作川流域圏懇談会」についてのお問い合わせ先

国土交通省中部地方整備局 豊橋河川事務所
〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1番6
TEL 0532(48)2111(代) FAX 0532(48)8100
<http://www.cbr.mlit.go.jp/toyohashi/>

国土交通省中部地方整備局 矢作ダム管理所
〒441-2841 愛知県豊田市閑瀬瀬町東畑67番地
TEL 0565(68)2321 FAX 0565(68)2328
<http://www.cbr.mlit.go.jp/yahagi/>

矢作川流域圏懇談会

1 どんな組織なの？

国土交通省では、矢作川流域の方々のご意見を踏まえて平成21年7月に国が管理する区間の「矢作川水系河川整備計画」を策定しました。今後、矢作川における治水、利水、環境、維持管理等の課題を解決し目標を達成していくためには、川の中だけの視点ではなく、水のつながりという視点で山から海までの流域圏(※1)全体を対象として、多様な課題の解決に向けて市民、関係機関、有識者の方々等と一緒に話し合い、役割をもちながら連携・協働して行うこと

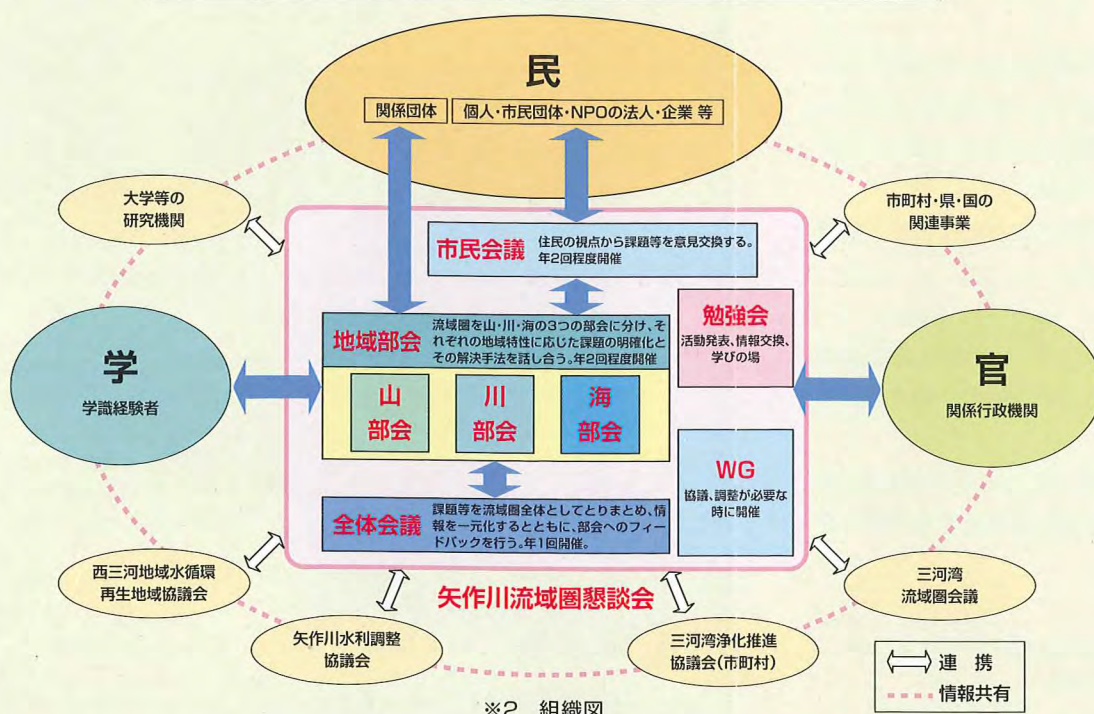
が必要であり、調和のとれた流域圏全体の発展につながると考えています。このため、国土交通省豊橋河川事務所では、多様な課題の情報共有・意見交換の場として、矢作川流域圏に係る個人・市民団体等、関係団体、学識経験者、国、県、市町村の関係行政機関で構成する「矢作川流域圏懇談会」を平成22年8月28日に設立(※2)しました。ついては、流域圏懇談会の趣旨に賛同し、ご協力いただける個人・市民団体・NPO法人・企業等の公募を行っています。

矢作川流域圏とは、矢作川流域、その流域に接する海域、及び矢作川の水利用地域や矢作川が氾濫する地域を含む一体的な地域。



※1 矢作川流域圏

流域圏懇談会は「全体会議」、「地域(山、川、海)部会」、「市民会議」で構成する。必要に応じてワーキンググループ(WG)、勉強会を開催する。



※2 組織図

参加組織

平成23年4月時点

- 【民(個人・市民団体等)】個人8人、市民団体等の29団体
- 【民(関係団体)】森林組合、漁業協同組合、土地改良区、中部電力(株)、矢作川水源基金、矢作川沿岸水質保全対策協議会等の14団体
- 【学(学識経験者)】11人
- 【官(行政機関)】3省1庁、3県13市4町2村

民(うち、個人・市民団体等)	民(うち、関係団体)	学(学識経験者)	官(行政機関)
中部森林開発研究会	根羽村森林組合	辻本 哲郎	恵那市(岐阜県)
豊田市 在住	豊田森林組合	名古屋大学大学院工学研究科 教授	瑞浪市(//)
豊田市 在住	豊田川川会議	蔵治 光一郎	設楽町(愛知県)
岡崎市 在住	矢作川川会議	東京大学愛知演習林長 准教授	新城市(//)
岡崎市 在住	矢作川学校	丹羽 健司	豊田市(//)
刈谷市 在住	矢作川環境技術研究会	鳥取大学地域学部 非常勤講師	岡崎市(//)
西尾市 在住	矢作川源流の森ねば	内田 臣一	安城市(//)
西尾市 在住	矢作川森林塾	愛知工業大学工学部都市環境学科 教授	幸田町(//)
Bio de Bio	矢作川水系森林ボランティア協議会	鷲見 哲也	みよし市(//)
アド清流愛護会	矢作川水族館	大同大学工学部都市環境デザイン学科 准教授	刈谷市(//)
伊勢・三河湾流域ネットワーク	矢作川治水史研究会		知立市(//)
奥矢作森林塾			高浜市(//)
乙川を美しくする会			東浦町(//)
上矢作ダム問題連絡協議会			半田市(//)
上矢作町自治連合会			武豊町(//)
加茂川を美しくする会			碧南市(//)
			西尾市(//)
			長野県 危機管理部
			// 環境部
			// 農政部
			// 林務部
			// 建設部
			岐阜県 危機管理部
			// 環境生活部
			// 農政部
			// 林政部
			// 県土整備部
			// 都市建設部
			愛知県 防災局
			// 地域振興部
			// 環境部
			// 農林水産部
			// 建設部
			// 企業庁水道部
			林野庁中部森林管理局 名古屋事務所
			農林水産省 東海農政局 農村計画部農村振興課
			// 整備部設計課
			環境省 中部地方環境事務所 環境対策課
			国土交通省 中部地方整備局 企画部広域計画課
			// 建設部都市整備課
			// 河川部河川計画課
			// 河川部地域河川課
			// 三河港湾事務所
			// 矢作ダム管理所
			// 豊橋河川事務所

2 何をやるの？

- ①全参加者で課題の洗い出しを行い、各課題の関係と山・川・海との関係を見える化します。
- ②課題の見える化から、解決手法を検討・実証し、民(産含む)・学・官のそれぞれが連携し何を行うかを見つけ、解決へとつなげます。



勉強会(山地域)状況



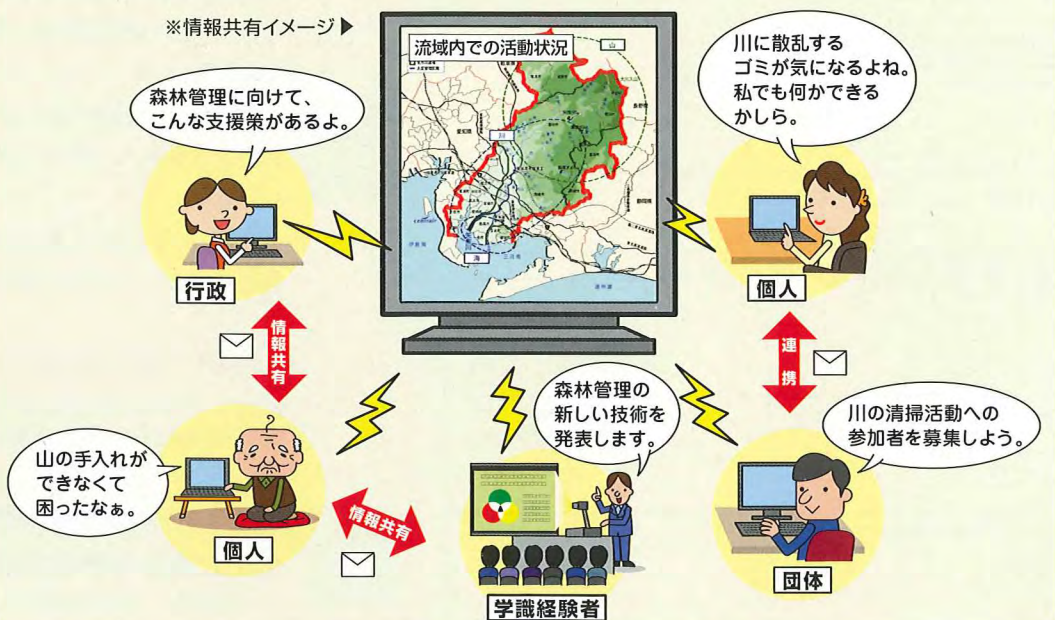
地域部会(川部会)状況



地域部会(海部会)状況

3 参加者の情報共有が大切です

インターネットを基本にホームページ、メーリングにより、さまざまな情報を共有します。



矢作川流域圏懇談会の活動進捗

1. 山部会 3 ヶ年（平成 25 年度～平成 27 年度）の活動成果

○平成 25 年度の活動成果

山村再生担い手づくり事例集

- ・山村で活動する団体への取材を行うことができた。
- ・事例集（Ⅰ）としてのとりまとめが実施できた。
- ・取材メンバーとして、川・海の一部のメンバーの参加がみられ連携のきっかけ作りを行うことができた。

山村ミーティング

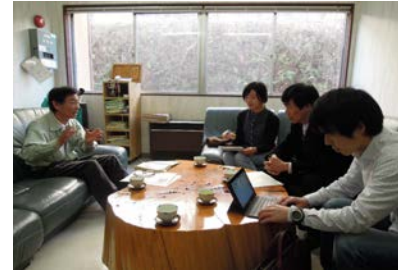
- ・年度内での WG 化はせず、関連する他団体の活動などがあった場合には情報共有を行った。

森づくりガイドライン

- ・森づくりガイドラインをよりよく理解するための「矢作川流域圏の森づくり」が行われ、メンバー間での情報共有を行うことができた。

木づかいガイドライン

- ・木づかいガイドラインの作成目的について共有化し、メンバーそれぞれにとっての木への想いについて意見交換ができた。
- ・作成に向けて WG の場でブレインストーミングを行い、活発な意見交換ができた。



取材先へのヒアリング風景



ブレインストーミングの様子

○平成 26 年度の活動成果

山村再生担い手づくり事例集

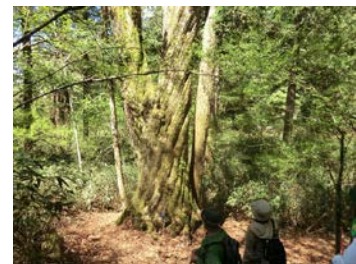
- ・取材先として、川・海の団体を選定し、流域圏一体化に向けたきっかけ作りを行うことができた。
- ・「山村再生担い手づくり事例集の対象を増やしながらか、川部会・海部会とも連携しながら作成する」という年度初めの目標に沿って、編集が行われた。
- ・前年度に続き、山村再生担い手づくり事例集(Ⅱ)を作成し、成果とした。

山村ミーティング

- ・WGにおいて、関連する他団体の活動等に関する情報共有を行った。
- ・「各地域で実施されている活動と連携しながらできるところから進めていく」という年度初めの目標に対し、持ち回りで行われる山部会の会議に地元団体が出席いただけだ。

森づくりガイドライン

- ・流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインの作成が始まった。
- ・流域圏を構成する自治体から特徴的な森づくりに関する情報収集(現地調査含む)を山部会 WG で行った。



森づくりに関する情報収集（現地調査）

木づかいガイドライン

- ・「矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る」という目標に対し、木づかいガイドラインの骨子を示し、部会内で意見交換を行った。
- ・市民・行政・学識者から見た木づかいの推進策をまとめた木づかいガイドライン(案)について意見交換を行い、とりまとめた。



木づかい推進の取組みの見学

○平成 27 年度の活動成果

山村再生担い手づくり事例集

- ・山村再生担い手づくり事例集は、3 ヶ年で計 64 活動団体を取材し、各年の成果をそれぞれ事例集 I, II, III として出版した。
- ・山・川・海の部会の枠を越えた連携により、取材・編集が行われた。
- ・過去の取材者が取材される立場になったり、取材者と取材先が新たなイベントを開催したり、新たな人間関係が生まれた。
- ・大学の講義（体験実習）に山村再生担い手づくり事例集が活用された。



データの構築（マップ作成）

山村ミーティング

- ・北海道中川町でのきこり祭りのような他地域でのイベントの成功事例が周知された。
- ・矢作川流域圏の規模が大きいこと、雇用主と被用者および林業従事者とボランティアの価値観が異なること、といった理由から、きこりに絞ったイベントの開催は難しいという認識を共有した。
- ・山村再生担い手づくり事例集や木づかいと連携したイベントの開催は可能である。
- ・豊田足助地区のもみじ祭りを山村ミーティングに活用できないかという意見が挙がった。

森づくりガイドライン

- ・流域の県・市村から森づくりの事例および間伐面積の情報収集（現地視察含む）を行い、現状と課題を明らかにした。
- ・流域の特徴的な森林と巨木・並木について、WG で意見交換を実施し、選定作業を行った。所在地については、マップに表示し見える化を進めた。
- ・豊田市の森づくりに関する新規事業では、今後、水源かん養機能に関わる試験林の設定が予定されている。また岡崎市においては、国の法律（水循環基本法）に先立って条例（水を守り育む条例）が制定され、水循環推進協議会に対する「緑のダム部会」が設置された。これらの動きは、いずれも国をリードする取り組みであり、WG として意見を発信していくべきであることが周知された。
- ・モデル林となる森林（アライダシ自然観察教育林、荒山林業等）を見学した。

木づかいガイドライン

- ・根羽村森林組合による木づかいライブ・スギダラキャラバンを展開した。
- ・流域ものさしの作成においては、WG で製作方法を協議し、木材の入手方法を検討した。
- ・カーボンオフセットを活用した木づかいの推進、プレイスメイキングによる集客力の向上について WG で周知された。

2. 川部会 3 ヶ年（平成 25 年度～平成 27 年度）の活動成果

川部会では、各モデルの課題についてポイントを整理している。各年の活動成果は、下記のポイント番号をベースにとりまとめた。

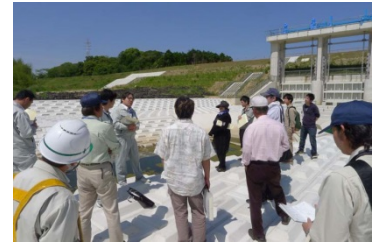
本川モデルの課題	家下川モデルの課題	地先モデルの課題
ポイント①：生き物の移動阻害	ポイント①：情報不足	ポイント①：活動環境の課題
ポイント②：河床のアーモコート化	ポイント②：生き物の移動阻害	ポイント②：活動推進上の課題
ポイント③：川の微地形の多様性消失	ポイント③：生き物の棲みかの不足	
ポイント④：在来種の減少	ポイント④：水量不足	
ポイント⑤：外来種対策		

○平成 25 年度の活動成果

本川モデル

【①進捗】

- ・本支川合流部の現状を確認するため、安永川、市木川、加茂川、大見川の現地調査を行った。
- ・安永川合流箇所に対しては、「取り付け護岸のコンクリートの覆土」を提案し、国交省により一部護岸における覆土が実現した。
- ・渡合護岸補修工事の延長の大きいコンクリート護岸とブロックによる根固め工に対して、現場レベルで自然環境への影響を少しでも軽減できるよう提案し、国交省によりコンクリート護岸の延長縮小、ブロック工から捨て石工に変更された。
- ・水門段差のみが移動阻害要因となっている加茂川を WG で取り組む場所として選定した。



安永川排水樋門での意見交換の様子

【③進捗】

- ・豊田大橋下流～平戸大橋下流の区間について現地調査を実施し、「矢作川の河川環境の方向性」についてとりまとめた。
- ・目標達成に向けて、低水路幅の取り扱いがキーポイントであることから、白浜工区のモニタリングがスタートした。



台風 18 号出水後のワンド形状確認

【⑤進捗】

- ・外来種の状況について情報共有した。

家下川モデル

【①進捗】

- ・現地確認を行い、家下川ー承水溝ー長池の移動阻害の状況について水位やゲート敷高の高さ関係を整理した。

【②進捗】

- ・矢作川本川との合流点にある矢板の一部を切り欠き、通水の状況や生き物の移動阻害の改善効果を確認した。

【③進捗】

- ・家下川リバーキーパーズの活動報告により、「草の植え付け」「越冬マス」「ブロック水制・堰（越冬場所）」の設置効果を情報共有した。また、WG により越冬マスの設置効果が大きいことも確認した。

【④進捗】

- ・現地での現況確認を行い、水源としての湧き水の活用、水を流すルートとして下水道管渠や用水路の活用等の提案を行った。



家下川合流点段差改善箇所の確認



かい堀り調査による越冬マス設置効果確認

地先モデル

【①進捗】

- ・活動団体にヒアリングを行い、個別課題の解決策について情報共有した。

【②進捗】

- ・活動団体にヒアリングを行い、専門家リストの情報収集を行った。

本川モデルの課題

- ポイント①：生き物の移動阻害
- ポイント②：河床のアーマコート化
- ポイント③：川の微地形の多様性消失
- ポイント④：在来種の減少
- ポイント⑤：外来種対策

家下川モデルの課題

- ポイント①：情報不足
- ポイント②：生き物の移動阻害
- ポイント③：生き物の棲みかの不足
- ポイント④：水量不足

地先モデルの課題

- ポイント①：活動環境の課題
- ポイント②：活動推進上の課題

○平成 26 年度の活動成果

本川モデル

【①進捗】

- ・加茂川の段差解消について意見交換を行い、木杭による魚道の提案があった。

【②進捗】

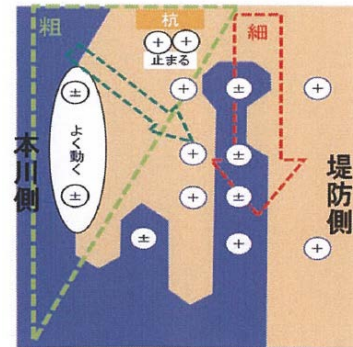
- ・総合土砂管理検討委員会における検討状況について情報共有を行った。

【③進捗】

- ・久澄橋下流の河道内の地形状況について、大同大学、国交省による現地測量を実施した。
- ・大同大学により、白浜工区のモニタリングが実施された。
- ・矢作川漁協とともに失われつつある瀬の状況を現地確認して課題を共有し、良好な河川（瀬淵）の状態に回復させるための方向性について矢作川漁協との意見交換をスタートした。

【①～⑤共通】

- ・豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会との情報共有・意見交換を実施し、矢作川のあるべき姿の検討を進めた。



土砂移動の基本パターン



矢作川漁協との合同現況確認

家下川モデル

【①進捗】

- ・家下川に関する管理者を整理した。
- ・流域圏懇談会の場が、関係者（愛知県、豊田市、豊田土地改良区、国土交通省、住民）の意見を収集し、合意のためのステーションとなった。

【②進捗】

- ・関係者との意見交換を行った。
- ・家下川下流域の段差改善について検討した。

【③進捗】

- ・関係者との意見交換を行った。
- ・承水溝の浚渫方法について提案した。



長池一承水溝の段差

地先モデル

【①進捗】

- ・活動団体にヒアリング及びアンケートを行い、個別課題の解決策について情報共有した。

【②進捗】

- ・活動団体にヒアリングを行い、専門家リスト（案）を作成した。



岡崎市ホテル学校の視察の様子

本川モデルの課題

ポイント①：生き物の移動阻害

ポイント②：河床のアーマーコート化

ポイント③：川の微地形の多様性消失

ポイント④：在来種の減少

ポイント⑤：外来種対策

家下川モデルの課題

ポイント①：情報不足

ポイント②：生き物の移動阻害

ポイント③：生き物の棲みかの不足

ポイント④：水量不足

地先モデルの課題

ポイント①：活動環境の課題

ポイント②：活動推進上の課題

○平成 27 年度の活動成果

本川モデル

【①進捗】

- ・加茂川の移動阻害解消方法を模索・検討し、WGメンバーと国交省との協働で柵田式魚道を試行的に設置することとなった。

【②進捗】

- ・総合土砂管理検討委員会における検討状況の情報共有、先進事例の見学（小渋ダム）を実施した。

【③進捗】

- ・大同大学により、白浜工区のモニタリングが実施された。

【①～⑤共通】

- ・豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会との情報共有・意見交換を実施し、矢作川のあるべき姿の検討を進めた。

家下川モデル

【①進捗】

- ・愛知県豊田加茂農林水産事務所との意見交換により、解決策の一つとして家下川に生育する生き物に配慮した改修工事計画検討を促すことができた

【③進捗】

- ・家下川湛水防除事業の意見交換により、改修工事計画の中に前池内の水深確保のための浚渫や越冬魚の待避計画が盛り込まれることとなった。

【④進捗】

- ・風車式の揚水機を用いた長池水量確保についての提案があった。

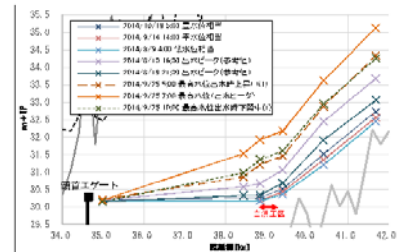
地先モデル

【②進捗】

- ・インターネットにより情報収集した活動団体リストが作成された。



小渋ダムの見学



白浜工区周辺の簡易水位観測結果
(流況別の瞬間縦断水面形)



家下川湛水防除事業に関する意見交換

3. 海部会 3 ヶ年（平成 25 年度～平成 27 年度）の活動成果

○平成 25 年度の活動成果

ごみ・流木の問題

- ・ごみ・流木調査を実施した。
- ・ごみ・流木調査票を作成した。

豊かな海の生物調査

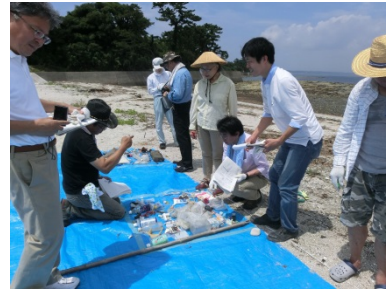
- ・干潟の生き物調査を実施した。
- ・三河湾の水質、底質を把握した。
- ・干潟の生き物調査の調査方法を確立した。

海と人の絆再生

- ・活動なし

干潟・ヨシ原再生

- ・干潟の生き物調査を得た。
- ・干潟の生き物調査の調査方法を確立した。
- ・ダムของ砂の実態調査を実施した。



ごみの実態調査の様子



干潟調査

○平成 26 年度の活動成果

ごみ・流木の問題

- ・ごみ・流木調査を実施した。
- ・山・川部会メンバーが参画した。
- ・子どもと親の反応を直接確認した。

豊かな海の生物調査

- ・干潟の生き物調査を実施した。
- ・三河湾の干潟・浅場造成に関する行政計画や事業の内容を把握した。
- ・鳥類観察を通じて、干潟後背地の土地利用の問題を共有した。
- ・海底の生き物等から三河湾の環境を確認した。

海と人の絆再生

- ・海部会関連機関主催のイベントに参加した。市民参加者が多く、関心の高さを把握することができた。
- ・アンケート調査を通じて、子どもや保護者の海への意識を把握した。

干潟・ヨシ原再生

- ・矢作ダムの砂を活用した干潟造成の試験施工に向け、関係機関等と方向性を共有した。



海岸の鳥類観察の様子



干潟観察会後のアンケート実施状況

○平成 27 年度の活動成果

ごみ・流木の問題

- ・海底ゴミの実態を把握した。
- ・矢作川流域圏懇談会活動として、ごみマップのユーザー登録を行う予定である。

豊かな海の生物調査

- ・造成干潟における専門的な調査は、事務所主導で実施することとする。
- ・矢作川流域圏懇談会の活動としては、4月以降に現地視察を行う。

海と人の絆再生

- ・海部会関連機関主催のイベントに参加した。市民参加者が多く、関心の高さを把握することができた。
- ・山部会との合同会議の場に漁業関係者が出席し林業、漁業を取り巻く現状について意見交換を行った。
- ・山部会メンバーと合同で造成後の現状を視察した。
- ・造成干潟の形状変化を把握する手法としてリング法を採用し、継続的にモニタリングすることとした。

干潟・ヨシ原再生

- ・山部会メンバーと合同で造成後の現状を視察した。
- ・造成干潟の形状変化を把握する手法としてリング法を採用し、継続的にモニタリングすることとした。



イベントに参加する市民



造成後の観察会

アクセスマップ

※豊田商工会議所のホームページよりアクセス図を使用しています。



場所：豊田商工会議所

住所：愛知県豊田市小坂本町 1-25

電話：0565-32-4567 [代表]

【公共交通機関】

- ◆名鉄豊田市駅より徒歩5分ほどです。
- ◆愛知環状鉄道新豊田駅より徒歩5分ほどです。

矢作川流域圏懇談会事務局（国土交通省 豊橋河川事務所） 行
〔所在地〕 〒441-8149 豊橋市中野町字平西 1-6
〔TEL〕 0532-48-8107 〔FAX〕 0532-48-8100 〔E-mail〕 uno-t85aa@mlit.go.jp

矢作川流域圏懇談会 第5回全体会議
傍聴申込用紙

ご住所	〒 ー
所属等	
ふりがな 氏 名	
TEL	
FAX	
E-MAIL	

※申込みの際にお送りいただいた個人情報は、本募集の目的以外には使用致しません。また、個人情報は厳重に管理し、流出等のないように管理致します。